

# 建設業従事者に 優先接種

## 全国初「エッセンシャルワーカー」認定

群馬県の山本一太知事は16日の定例会見で、建設業従事者をエッセンシャルワーカーとして認定し、新型コロナウイルスワクチンを優先接種すると表明した。地震、台風といった自然災害や家畜伝染病などが発生した際に、真っ先に最前線に駆けつけて緊急対応に当たる建設業の備えを万全にする。山本知事は「社会に欠かせない存在。県民の安全・安心を守るため、建設業などエッセンシャルワーカーの接種を早急に進める」と語った。建設業をエッセンシャルワーカーとして明確化するのには全国初という。

### 災害対応に備え

#### 群馬県

県はこれまで医療、福祉・介護、教育・保育、警察・消防の4分野を対象とし、優先接種を実施、適宜準備を進めてきた。今回第2弾として、社会インフラの維持に重要な建設業、エネルギー・インフラ、公共交通の3分野を追加した。災害対応を念頭に建設業と電気、ガス、水道、情



16日の定例会見で趣旨を説明する山本知事(左)と青柳会長

報通信の各インフラ事業者、担当部署の自治体職員を対象とする。公共交通は鉄道、バス、タクシー事業者。優先接種は、17日に高崎市のコンベンション施設に開く県の県央大規模接種センターで進める。建設業も6月中旬にスタートする見通しだ。同センターでは1日1万人規模の接種を目指す。会見に同席した群馬県建設業協会の青柳剛会長は「県民の安定的な生活の確保を担うエッセンシャルワーカーとして明確に位置付けられたことは、全国の地方建設業にとっても画期的だ。早速事務的な作業を進めて1人でも多く接

種し、台風シーズン前に災害に強い強固な体制を築く」と力を込めた。

群馬建協によると、16日午前時点で会員249社の計6136人が接種を希望している。青柳会長は「災害時の緊急対応には支部会員や関連企業も参加している」と指摘し、協会本部会員でなくても、災害出動実績がある協力会社などの従業員も順次対象に加える考えを示した。

接種は県内12の支部単位で進める。新規感染者の動向や市町村接種の進捗、人数などを考慮し、順番を決める。稼働中の仕事をなるべく中断しないよう、技術者を交替しながら接種を推進。接種日を数日間設けるなどの工夫をこらす。会員企業には接種日、体調不良(副反応)による休みについては、業務の一環として扱うことを要請する方針だ。

県が建設業をエッセンシャルワーカーとして明確に宣言することは、従事者がその社会的使命を再認識すると同時

に、県民からも重要な職業と認められ、やりがいや誇りの醸成につながる。「地域を守る建設業」の認知度向上は、将来の担い手確保にも好影響が期待できそうだ。

# 優先接種に建設業追加

群馬県エッセンシャルワーカー認定

建協と会見

山本一太群馬県知事と群馬県建設業協会(群馬建協)の青柳剛会長は16日に県庁で会見し、新型コロナウイルスワクチンの優先接種業種に建設業を加えると発表した。災害の緊急対応に出動する建設業などを県がエッセンシャルワーカーに位置付け、高崎市の大規模接種会場で接種を受けてもらう。青柳会長は「台風シーズン前に、災害に強固な体制を築きたい」と決意を示した。

県が医療などのこれまでの優先枠に建設業、エネルギー・インフラ、公共交通を加えた。群馬建協は、地

域の新規感染者や、市町村の接種状況を踏まえて本部が調整機能を担い、県内12支部単位で接種を進める。県、市町村、国の工事を中断せず、接種日を複数設けるなどして交代で接種を急ぐ。

16日午前9時時点で協会事務局を含め会員企業のうち249社、6136人が接種を希望している。接種に伴い体調不良があった場合には、業務の一環として対応するよう会員企業に求める。災害対応の実績のある関連企業の接種も順次進める。

会見で山本知事は「社会インフラの維持に必要な建設業などを対象にする。災害に対応する社会に欠かすことのできない存在。建設業をエッセンシャルワーカーに位置付けるのは群馬が全国初」と説明した。青柳会長は「中小事業者も行政と一体になれば早期に接種できる。災害時のやりがいの醸成に寄与し、防災・減災国土強靱化になる。地域を守る建設業の役割をしっかりと果たす」と述べた。



山本知事と青柳会長(左)



写真提供 〓県

## 建設業ワクチン優先接種

山本一太知事は、16日の定例記者会見で新型コロナウイルスワクチンの接種について、緊急時の災害対応にあたる建設産業を日常生活の維持に欠かせない仕事を担う「エッセンシャルワーカー」と位置付け、優先接種の対象にすることを明らかにした。建設産業をエッセンシャルワーカーとするのは全国で群馬県が初めてとなる。(詳細は6面に掲載)

山本知事

# 建設産業追加し推進

## ワクチンの優先職種に

(1面の続き)

エッセンシャルワーカーとしてこれまでワクチン接種の優先枠を設けていたのは◇医療◇福祉◇介護◇教育・保育◇警察・消防―。優先枠により、接種券が届く前に接種が可能となっていた。今回追加したのは社会インフラの維持に必要な

な業種となり、建設産業だけでなく電気・ガス・水道・情報通信業のエネルギー・インフラに関する業種や災害・コロナ対応部署の自治体職員、鉄道・バス・タクシー事業者といった公共交通も加えている。

建設産業で優先枠の対象となるのは群馬県建設業協会(青柳剛会長)と群馬県測量設計業協会(嶋田大和会長)、群馬県交通安全施設業協同組合(久保田雅之理事長)。建設業の追加は、自然災害時にも緊急対応などで対応できる体制を築くことを目的としている。

山本知事は「災害対応の重要性は増してきており、建設業は災害時に最前線で対応に当たる社会に欠かすことのできないエッセンシャルワーカーである。県民の安全・安心を守るためにも接種を早期に進めていきたい」と話した。

会見には業界団体を代表して青柳剛会長も出席し「災害対応は正会員に加えて支部会員や関連企業も参加している。災害出勤実績のある企業への接種を進め、台風シーズンを前に強固な体制を築きたい」と述べた。

## 県央センターきょう開設

# 職場接種も受け入れ

Gメッセ群馬（高崎市）に開設する県営の県央ワクチン接種センターについて、県は16日、企業や団体の職場接種を受け入れると発表した。開設初日となる17日から申請を受け付ける。千人以上の接種などが条件。同センターでの優先接種対象に建設業などを追加することも明らかにした。

県央センターでの職場接種は、企業が打ち手などの医療従事者を確保し、名簿や予診票を管理する担当者も配置する。単一の企業、団体での申請を原則とし、

従業員の同居家族も接種を受けられる。県が専用の接種ブースを提供する。

17日に県ホームページに詳細を公表する。国も職場接種を促すが、県内では会場の確保、ワクチンや接種記録の管理などが難しいといった意見があり、最低限の準備で実施が可能な環境を提供する。

一方、県央センターで優先接種の対象としていた職種に、建設業のほか、電気、ガス、水道といったライフライン関係や、公共交通なども新たに加えた。建設業など災害対応に当たる職種

は社会生活に不可欠と判断した。医療や福祉関連では看護学生や鍼灸師などにも対象を拡大する。

16日の知事会見に同席した県建設業協会の青柳剛会長は「災害時に率先して駆け付ける建設業がエッセンシャルワーカーと位置付けられた。一人でも多く接種を進め、台風シーズン前に強固な体制を築きたい」と語った。会員企業の6100人余りが接種を希望しているという。

（山田祐二）

## 建設業など

### 優先枠追加

新型コロナウイルスワクチン接種をめぐり、県は16日、県独自の優先枠に位置付けた、社会生活維持に不可欠なエッセンシャルワーカーについて、建設業や鉄道などの事業者、自治体職員らを新たに対象に加えること発表した。

県によると、追加対象となったのは災害時緊急対応などに当たる社会インフラ関連の建設業や電気、ガス、水道、情報通信業の従事者、自治体職員。鉄道・バス・タクシーの公共交通

の従事者も対象とする。

また、看護学生▽はり師▽きゅう師▽あんまマッサージ指圧師▽柔道整復師も新たに対象に加えた。

優先枠への接種は、17日開設の県央ワクチン接種センター（高崎市）で実施。接種規模は17、24日の調整日を除く6日間で約5600人と想定した。21日からは接種券を持つ64歳以下は一般接種も進め、同期間に約400人と見込んでいる。また、企業の職域接種の接種会場として、県央センターを活用してもらう独自モデルの導入も表明。今後、利用企業を募る。